

大腸カメラのすすめ

内視鏡室 山下 賢

2021年4月より、公立世羅中央病院で主に内視鏡診療（胃カメラ、大腸カメラ）を行わせていただくことになりました。専門は大腸疾患全般であり、特に大腸カメラに力を入れていこうと思っております。

現在日本では、大腸がんになる人の数はがんの中で男性3位、女性2位となっています（死亡数では男性3位、女性1位）。胃がんは現在減少していますが、大腸がんは増え続けています。理由として食事・生活習慣が欧米化していること、日本では世界と比較すると大腸カメラを受ける人が少ないことなどが挙げられます。大腸カメラを受けることで、がんの前段階（いわゆる腺腫≡ポリープ）、あるいは早期のがんを発見することができ、大腸カメラで切除することができます。当院では大腸カメラを施行し、切除したほうが良い病変はその場で切除し、その後1泊入院していただく流れとなっています。「大腸カメラは便潜血検査が陽性になったら受ければいい」と思っている人が大多数ですが、前述したポリープや初期の段階のがんであれば便潜血が陽性となることは稀です。そのため、以前に大腸カメラでポリープを指摘された方、身内に大腸がんの既往のある方などは積極的に大腸カメラを受けることをお勧めします。もちろん、健康診断・人間ドッグの一環で受けられても良いと思いますし、その際にポリープの数を参考に将来大腸がんがしやすいか、そうでないかの判別もある程度可能です。大腸カメラを受けた後も定期的にかメラを受ける必要がある場合には、大腸カメラを受ける間隔なども提案できると思います。大腸カメラは受ける前に大腸をきれいにするため、下剤を飲むことが必要です。下剤を飲むことに抵抗がある方もおられますが、現在は下剤も改良され随分と飲みやすくなっています。また検査が非常に苦痛であるというイメージがあると思いますが、大腸カメラも日々改良されており以前と比較すると苦痛を受けることなく挿入可能となりました。鎮静剤を用いて大腸カメラを受けることもできますのでご相談ください。大腸カメラを受けようか迷っている方もぜひ主治医の先生に相談してみてください。

少しでも世羅の皆様の健康の助けになればと、一生懸命診療させていただきます。何卒、今度ともよろしく願い申し上げます。

